



SDGsまちづくり推進事業 2022・2023 Report

2024年3月 名古屋市環境局環境企画課



目 次

令和4年度 SDG s まちづくり推進事業の概要……………	1
SDG s まちづくりキックオフセミナー2022……………	3
SDG s まちづくり ワークショップ……………	4
SDG s まちづくり 第1回ワークショップ……………	4
熱田湊 SDG s まちづくりワークショップ 第2～4回……………	5
熱田湊 令和4年度SDG s アクション……………	9
熱田湊 令和5年度SDG s アクション……………	10
有松 SDG s まちづくりワークショップ 第2～4回……………	19
有松 令和4年度SDG s ワークショップ資料……………	23
有松 令和5年度SDG s アクション……………	24
アンケート結果……………	31
「活動見える化プログラム」による SDGs 評価分析……………	47
おわりに……………	59

SDGs まちづくり推進事業の概要

令和2年度及び令和3年度に、中区錦二丁目をモデルエリアとして実践した SDGs の取り組みを他地域へ展開するため、令和4年度及び令和5年度の2か年にわたって熱田湊まちづくり協議会と有松地域デザイン委員会の2団体が名古屋市とともに、環境を切り口とした SDGs の視点から地域団体・事業者等と連携した地域課題等の解決を図る取り組みを行ってきました。

1年目の令和4年度は、各地域とともに SDGs まちづくりに取り組む意欲のある市民、企業、団体、学生など多様な主体を地域内外に関わらず募集しワークショップを実施しました。ワークショップでは環境を切り口とした SDGs の視点から地域課題の解決を図るため、活発な意見交換を行いました。さらに、ワークショップで出たアイデアをもとに SDGs アクションを試行的に実施しました。

2年目の令和5年度は、両団体がそれぞれワークショップで出たアイデアをもとに、名古屋市とともに様々な観点から SDGs アクションを実施しました。

令和4年				令和5年			令和5年		
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
キックオフセミナー9/22(木) ワークショップ参加者募集～9/28 まで				成果報告会 3/24(金)					
第1回ワークショップ (両地域合同) 10/5(水)									
熱田湊 ワークショップ 第2回 10/14(金) まち歩き 10/23(日) 第3回 11/16(水) 第4回 11/30(水)				熱田湊 SDGs アクション 子ども食堂クリスマス会 12/22(木) SUP でお掃除 2/18(土) 葎の砂入れ・ポタニカル ライト設置 3/19(日)			熱田湊 SDGs アクション ポタニカルライト設置 6/18(日)		
有松 ワークショップ 第2回 10/19(水) まち歩き 11/5(土) 晩秋の有松を楽しむ会 11/5(土)・6(日) 第3回 11/9(水) 第4回 12/14(水)				有松 SDGs アクション <関連イベント>染め直し体験 in 早恒染色 2/11(土) 染め直しフェス in FabCafe Nagoya 2/19(日) <関連イベント>愛着のある一枚を 染め直そう In アリマソーケット 3/5(日)			有松 SDGs アクション ジェイアール名古屋タカシマヤ 「やさしい暮らし展」 染め直し体験 5/17(水)～22(月) 有松絞りまつり 「そうなる?!有松絞りの 浴衣展」 6/3(土)・4(日)		

SDGsまちづくり推進事業を実施した2団体

熱田湊まちづくり協議会



堀川沿川魅力化プロジェクト

東海道唯一の海路の玄関口だった宮の渡し周辺地区、かつて魚市場や魚問屋が集積していた大瀬子地区周辺を中心とした堀川沿川エリアをより魅力的なエリアにしていくため、ワークショップを実施し、ワークショップで出たアイデアをもとに、SDGsアクションを実施しました。

有松地域デザイン委員会



絞り染め×アップサイクルプロジェクト

若年層をはじめ多くの人々に有松を楽しんでもらえるよう、環境負荷の少ない天然染料での絞り体験や、古着の染め替えといったアップサイクル活動について考え、取り組むため、ワークショップを実施し、ワークショップで出たアイデアをもとに、SDGsアクションを実施しました。

令和5年						令和6年		
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
							成果報告会 2/9(金)	
熱田湊 SDGsアクション								
			真夏の夜の浜おどり 8/20(日)					
			葦が増殖するための土壌づくり 5/24(水)、10/15(日)					
			SDGs 講演会&コンサート 10/25(水)					
			子ども図書室開設 11/3(金・祝)					
			年末大喜利! プロギング×ウォーキング×フローイング 12/17(日)					
			白鳥子ども食堂 SDGs クリスマス会 12/21(木)					
			防災講演会 12/25(月)					
			子ども食堂コンポスト活用 1/26(金)					
有松 SDGsアクション								
			有松ゆかたまつり「藍のたたき染め体験」 8/11(木・祝)					
			知多木綿ツアー 9/29(金)					
			錦二丁目まちづくり「みちにわ 2023」珈琲で染める絞り体験 10/21(土)					
			晩秋の有松「見て触れる木綿綿花から糸紡ぎ体験」 10/28(土)・29(日)					
			知多藍染工房見学ツアー 1/16(火)					

SDGsまちづくりキックオフセミナー2022

SDGsの重要性や企業の役割について学び、各自ができるSDGsの取り組みについて考えます。

また、令和3年度まで2年間にわたってSDGsまちづくりに取り組んできた錦二丁目エリアマネジメント株式会社と、今年度から新たにSDGsまちづくりに取り組む熱田湊まちづくり協議会及び有松地域デザイン委員会の方々を招き、SDGsで繋がりが広がる「まち」の未来の姿について議論しました。

日時：令和4年9月22日（木）
18:00～19:20
オンライン開催

第1部 講演 「リニア時代のSDGs」

岐阜大学客員教授 名古屋都市センター特任アドバイザー
加藤義人 氏

加藤さん：リニア時代に選ばれるまち名古屋になるために、地域にSDGsの理解が広がっているか、あるいは一つでもSDGsの具体的な取り組みがまちづくりに盛り込まれているかが大事です。既に先行している錦二丁目の取り組みに加えて、今年度の熱田湊まちづくり協議会、有松地域デザイン委員会の取り組みに期待します！！



第2部 パネルディスカッション「SDGsとまちづくりについて」

コーディネーター 加藤義人 氏
パネリスト

錦二丁目エリアマネジメント株式会社代表取締役	名畑恵 氏
熱田湊まちづくり協議会会長	中田俊夫 氏
有松地域デザイン委員会委員	浅野翔 氏



パネルディスカッション当日の様子
左から加藤氏、名畑氏、中田氏、浅野氏

第一部で講演いただいた加藤さんの進行のもとで、まず名畑さんから錦二丁目でのSDGsの取り組みについて語っていただきました。

そのあと、熱田湊について中田さん、有松について浅野さんから、それぞれの地域課題と、今後の取り組みについて語っていただきました。

SDGsまちづくり ワークショップ

熱田湊まちづくり協議会または有松地域デザイン委員会とともにSDGsまちづくりに取り組む意欲のある、市民、企業、団体、学生など多様な主体を、地域内外に関わらず募集し、それぞれの地域でワークショップを開催しました。

ワークショップでは環境を切り口としたSDGsの視点から地域課題の解決をはかるべく、SDGsまちづくりの目標やSDGsアクションのアイデアを考えました。

参加要件

- 原則全日参加できること
- 企業・団体の場合、原則1社・団体からの申込は各地域1～2名とし、同じ企業・団体（複数人）が分かれて別々の地域に参加することは可能

SDGsまちづくり 第1回ワークショップ 熱田・有松合同

日時：2022年10月5日（水）
名古屋都市センター ホール



当日の内容

- 錦二丁目のSDGsまちづくりに学ぶ
- 熱田湊まちづくり協議会の取組紹介
- 有松地域デザイン委員会の取組紹介
- グループワーク
 - ①自己紹介・名畑さんの話の感想
 - ②SDGsについて語ってみよう
- 今日の感想
- 今後の進め方の説明

1回目は、熱田地域と有松地域の合同ワークショップとして開催。はじめに錦二丁目のお話を聞くことからスタート！

錦二丁目でのSDGsプロジェクトの成果として、多様な主体（特に企業の方）が参画し、SDGsを自分ごと化し、まちの変化が起きた点があげられます。そして、かかわる全ての人に「気づき」と「(人との) つながり」ができました。

錦二丁目のお話に続き、熱田湊まちづくり協議会、有松地域デザイン委員会の取り組み紹介をしていただきました。



グループワークでは、8つ程度のグループに分かれ、両地域に参加する人たちが混ざって、自己紹介をしたり、SDGsについて語ったりしていただきました。

ワークショップの会場：熱田文化小劇場 練習室

第2回 10/14(金)

熱田湊まちづくり協議会の取り組みを聞いた後、グループに分かれて自己紹介や自分がやりたいことを話し合いました。

後半は、課題の共有やテーマの抽出をするために、参加者全員でキーワードを整理する「マインドマップ」を作成しました。その結果、3回目以降に議論するテーマを「子ども」「水辺」「資金・外のまきこみ」「地域ストーリー」の4つに決めました。

第2回 内容

- 熱田湊まちづくり協議会の取組を聞く
- グループワーク
 - 自己紹介+自分がやりたいこと
- グループ発表
- 全体ワーク マインドマップ作り



熱田湊周辺まち歩き 10/23(日) (自由参加)



第2回と第3回ワークショップの間に、熱田湊地域を実際に見ていただく機会として、熱田湊まちづくり協議会の方に案内していただき、まち歩きを行いました。

宮の渡し・大瀬子公園や堀川周辺、旧東海道などを歩き、熱田湊地域の現状や課題を確認しました。

第3回 11/16(水)

第3回から第4回は、4つのテーマ「子ども」「水辺」「資金・外のまきこみ」「地域ストーリー」ごとにグループに分かれて意見交換を行いました。

第3回は、各テーマで実現したいゴール（目標）やゴール達成のための取り組みについて話し合いました。各テーマの話し合いの結果を発表した後、人気投票を行い取り組みの絞り込みを行いました。

第3回 内容

- 前回及びまち歩き振り返り
- グループワーク1
振り返りを受けて意見交換
- グループワーク2
 - ①実現したいゴール（目標）を立てよう
 - ②ゴール達成のための短期の取組を組み立てよう
（この2～3年の間で自分達で取り組みたいこと）
- グループ発表、取組の絞り込み（人気投票）



第4回 11/30(水)

第4回は、前回絞り込んだ取り組みをみながら、改めてSDGsの17のゴールや169のターゲットを読み込み、その関連を考えながらSDGsアクション企画案を作成しました。

第4回 内容

- グループワーク SDGsアクション企画案の作成
 - ①SDGs169ターゲットを読み込もう
 - ②SDGsアクション企画案を作成しよう
- SDGsアクション企画案を発表
- SDGsアクション企画案をみんなで確認



SDGsとの関連を意識しながら、アクション企画案を作成！



<テーマ>	<目標>	
子ども	→ ①本当に困っている子どもが楽しく通うことができる子ども食堂	→
水辺	→ ②住民も観光客も楽しめる水辺、世界中の人が来たくなる水辺 ・水辺でとことん遊ぼう ・映えスポットを作ろう ・アシで堀川の水質浄化	→
資金・外のまきこみ	→ ③ 資金を稼ぎ、外の巻き込みを進める	→
地域ストーリー	→ ④ 地域のストーリーを次世代に伝える ・空き家や子ども食堂で学生と子どもが関わる ・歴史を知っている人とも関わる ・「新しく」ではなく「レトロなもともとある雰囲気」を売り出していく	→

<WS での課題や取り組み>

- ・ 食べるだけでなく楽しむ
- ・ 学生や若者を巻き込む
- ・ 年に1回イベントを
- ・ 学生が勉強を教える

- ・ 川のごみ拾い
- ・ 水中ドローン体験
- ・ 葦で堀川の水質浄化
- ・ 映えスポットを作る

- ・ 神宮商店街の活性化
- ・ 熱田の伝統を守る
- ・ 熱田と他のまちとの連動企画
- ・ 熱田の文化の発信

- ・ 空き家の活用
- ・ レトロな雰囲気が売り
- ・ 歴史好きを集める
- ・ まつりへの参加
- ・ 生涯学習できる環境

<SDGs アクション>

-
- ・ 誰もが参加しやすいクリスマス会
 - ・ 学生を中心に居場所づくり
 - ・ 残飯はコンポストに入れて活用
 - ・ フードロス削減のための寄付食材を活用

-
- ・ SUPでゴミ拾い
 - ・ 堀川に葦を植える
 - ・ 堀川の葦で卒業証書を作る
 - ・ 映えスポット川沿いに桜を植える／ライトアップ

-
- ・ 堀川周回マラソンやウォーキング大会の開催
 - ・ 刀剣乱舞（アニメ）とのまちあるき（クラウドファンディング）
 - ・ 食べ物以外のお土産の開発
 - ・ 神宮商店街でマルシェを開催

-
- ・ 空き家の利用
 - ・ 子ども図書館
 - ・ 学生と子どもの交流
 - ・ 地域の元気な高齢者と子どもの交流
 - ・ 防災の話、熱田の歴史の話を伝える

子ども食堂クリスマス会

12/22

しろとり子ども食堂で
SDGs クリスマス会を実施



SUP で堀川をおそうじ

2/18

ワークショップ参加者が、
ナゴヤ SUP 推進協議会に
呼び掛けて堀川をおそうじ



葦の砂入れ・ボタニカルライト設置 3/19

堀川の浄化に効果がある葦を植えるための砂入れと、
微生物の力で発電するボタニカルライトを設置（県内初常設）



熱田湊まちづくり協議会では、令和5年度に9つのSDGsアクションを実施し、SDGsの地域への浸透に努めました。

熱田湊 令和5年度SDGsアクション一覧

1. ボタニカルライト設置	R5 年 6 月 18 日
2. 真夏の夜の浜おどり	8 月 20 日
3. 葦が増殖するための土壌づくりと植葦	5 月 24 日、10 月 15 日
4. SDGs 講演会&コンサート	10 月 25 日
5. 子ども図書室開設（市営神戸荘の活用）	11 月 3 日
6. 年末大喜利！プロギング×ウォーキング×フローイング	12 月 17 日
7. 白鳥子ども食堂 SDGs クリスマス会	12 月 21 日
8. 防災講演会	12 月 25 日
9. 子ども食堂コンポスト活用	R6 年 1 月 26 日

熱田湊 1 ボタニカルライト設置 令和5年6月18日(日)

<概要>

宮の渡し公園で、令和5年3月に1台設置したボタニカルライトを新たに設置し、公園内に計2台設置することができました。

ボタニカルライトは、微生物の力により夕方には優しい光で公園がライトアップされます。



<他団体の協力>

ボタニカルライトの設置にあたり、名東区にある(株)グリーンディスプレイの協力を得ました。

<関係するSDGs 17の目標>



熱田湊 2 真夏の夜の浜おどり 令和5年8月20日(日)

<概要>

熱田発祥の都々逸（どどいつ）を練習し、昭和の時代で途絶えた生演奏の盆踊り大会を都々逸の生演奏により復活。堀川にいる生物や水質・海洋汚染を学ぶパネル展示などのブースやキッチンカーも出店し、歴史文化の継承と地域住民の交流になりました。参加者は1,030人で、「来年も続けてほしい」という地元の方の声が続出しました。

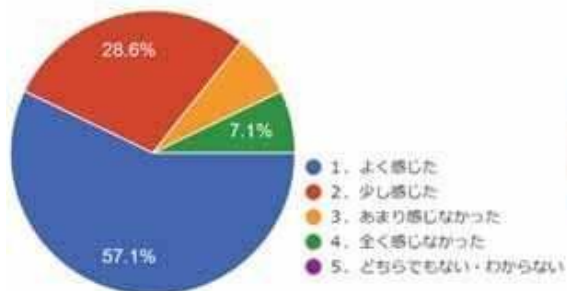


<他団体の協力>

熱田湊まちづくり協議会のメンバーが、ワークショップ参加者をはじめ地区内外の関心がある人たちに呼びかけて「真夏の夜の浜おどり実行委員会」を立ち上げて企画・実施しました。

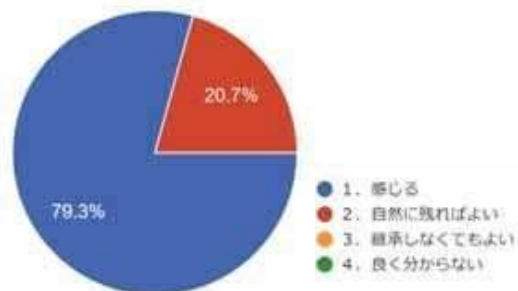
<アンケート結果>

SDGs のめざす未来や取り組みについて
親近感や身近さを感じましたか？



n=28

熱田区の伝統文化として継承して
いくべきものと感じますか？



n=29

この事業を通じて、SDGs のめざす未来や取り組みについて親近感や身近さを「よく感じた」が 57.1%、「少し感じた」が 28.6%となりました。また、都々逸を熱田区の伝統文化として継承していくべきものと「感じる」が 79.3%ありました。

<関係するSDGs 17の目標>



熱田湊 3 葦が増殖するための土壌づくりと植葦

令和5年5月24日(水)、10月15日(日)

<概要>

令和5年3月に続き、堀川の水質浄化に向けて、市内企業から提供された水質浄化作用のある砂を敷き、葦が増殖するための土壌づくりを実施しました。春と秋に2回実施し、延べ参加者は23人(5月24日9人、10月15日13人)でした。



<他団体の協力>

浄化作用のある砂を尾張旭市にある江崎産業(株)から提供していただきました。

<関係するSDGs17の目標>



熱田湊 4 SDGs 講演会&コンサート 令和5年10月25日(水)

<概要>

UNCRD（国際連合地域開発センター）の協力により、研究員の浦上奈々さんをお招きし、SDGs 講演会を実施しました。熱田区内の全学区を巻き込み、熱田区内の人達に SDGs を知ってもらう機会になりました。参加者数 250 人でした。

<他団体の協力>

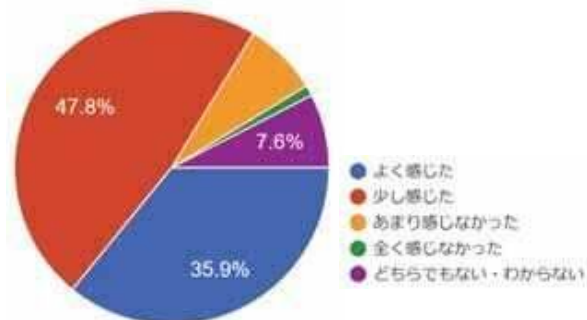
UNCRD（国際連合地域開発センター）の協力により実施しました。



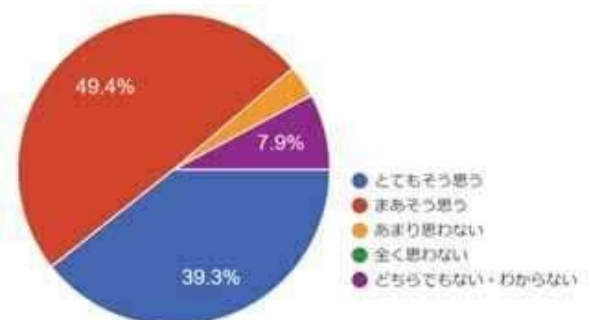
<アンケート結果>

SDGs のめざす未来や取り組みについて
親近感や身近さを感じましたか？

今後、熱田湊まちづくり協議会とともに
SDGs を進めていこうと思いますか？



n=92



n=89

<関係するSDGs 17の目標>



<概要>

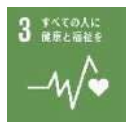
市営住宅神戸荘の1階の空き店舗を活用して令和5年9月28日に子ども図書室をプレオープンし、11月3日にオープンイベントを実施しました。不要になった絵本や児童書、SDGsに関する本を置き、熱田の歴史が分かるパネル展示もあり、異世代の交流の場、熱田の歴史を知る場をめざしています。オープンイベント時には、なごや子ども応援文庫 ono ono（オノオノ）も設置し、これまでで延べ来館者237人（18回、子ども100、大人137人）となっています（令和6年2月9日時点）。



<他団体の協力>

熱田図書館の協力で不要になった絵本や児童書と、名古屋市立大学の協力でSDGsに関する本を置き、熱田区役所の協力で熱田の歴史が分かるパネル展示も設置しました。またオープンイベント時には、鶴舞中央図書館の協力でなごや子ども応援文庫 ono ono（オノオノ）も設置しました。

<関係するSDGs17の目標>



6 年末大喜利！プロギング×ウォーキング×フローイング 令和5年12月17日(日)

<概要>

陸上ではスウェーデン発祥のごみ拾いとジョギングを合わせたプロギング、堀川の水上では SUP の会、堀川沿岸では毎月行われている堀川清掃を実施。水陸両方で集められたごみの種類で大喜利を競ったり、地元住民の協力で豚汁のふるまいもあったりするなど、楽しくごみ拾いが行われました。スタート・ゴール地点となった宮の渡し公園では、堀川まちネットによる海洋汚染の講座も実施しました。103 人が参加しました。



<ごみ大喜利 順位>

1 位 すてきなステッキ



2 位 ソーラーくん(太陽光電池)
信号で日光浴。歩くのに
疲れて助けてもらった



3 位 本田翼
(チョコエッグ
「スプラトゥーン」)



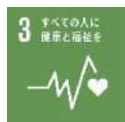
4 位 宮の渡しのゴミ
とっていとって一風堂の
カップも拾える SUP どう？

5 位 (大喜利なし)
拾ったごみは馬券とたばこの吸い殻

<他団体の協力>

陸上の参加者募集はプロギングジャパン、水上の参加者募集はナゴヤ SUP 推進協議会、海洋汚染の講座などは堀川まちネットの協力を得ました。

<関係するSDGs 17の目標>



熱田湊 7 白鳥子ども食堂 SDGs クリスマス会 令和5年12月21日(木)

<概要>

令和4年度から実施している白鳥子ども食堂で、SDGs クリスマス会を実施しました。廃棄直前の食材やジュースを提供し、配膳には名古屋学院大学の学生に協力していただきました。終盤には熱田ライオンズクラブからサンタクロースに来ていただき、子ども達にお菓子を配っていただきました。また、SDGs ワークショップでは、間伐材を使った星形のオーナメントやしおりに子ども達が思い思いに絵を描いて楽しんでいました。親子50人の参加がありました。



コンポスト活用によりフードロスを削減

白鳥子ども食堂では、子ども食堂で出た食べ物の食べ残しなどをコンポストに入れて肥料にしてフードロスを削減しました。令和6年1月26日(金)には、この肥料をプランターに入れ、子ども食堂に来た子ども達や手伝いに来てくれている名古屋学院大学の学生達とニンジンの種を植えてコミュニティセンターに設置しました。参加者は18人でした。



<他団体の協力>

名古屋学院大学の学生によるお手伝い、名古屋熱田ライオンズクラブなどからのクリスマスのお菓子の提供、コンポストの活用にあたり LFC コンポストの協力を得ました。

<関係するSDGs 17の目標>



熱田湊 8 防災講演会 令和5年12月25日(月)

<概要>

毎年白鳥学区主催で年末または年始に開催している防災講演会と心の絆コンサートでは、京都橘高校吹奏楽部が出演し市内外から多くの人が駆け付けます。

この機会を活かし、防災講演会では元自衛隊幹部の名古屋市防災危機管理局、麻生主幹をお招きして災害現場の実相をお話いただき、SDGsと災害と題してパネルディスカッションを行いました。日本福祉大学の千頭先生にコーディネートをしていただき、中田会長、宮宿会から妙香園の田中社長も参加し、地域の防災対策、地元企業の防災対策について話し合い、来訪者に考えていただく機会となりました。参加者は2027人でした。



<他団体の協力>

講演会の実施にあたり、名古屋市防災危機管理局、宮宿会の協力を得ました。

<関係するSDGs17の目標>



ワークショップの会場：有松・鳴海校会館 大会議室（第2・3回）、有松山車会館（第4回）

第2回 10/19(水)

有松地域の現状や課題、取り組みを聞いたあとに、質疑などを重ねて時間をかけて地域の理解を深めました。その後、グループに分かれて自己紹介や自分がやりたいことを話し合いました。

後半は、課題の共有やテーマの抽出をするために、参加者全員でキーワードを整理する「マインドマップ」を作成しました。作成にあたっては付箋にキーワードを書き出し、付箋を整理する中でマップを作成していきました。その結果、3回目以降に議論するテーマを「技術の継承と革新」「稼ぎ方を考える」「エシカル」「有松らしさを徹底的に考える」の4つに決めました。

第2回 内容

- 有松地域の現状や課題、取組を聞く
- グループワーク
自己紹介+自分がやりたいこと
- グループ発表
- 全体ワーク マインドマップ作り



有松まち歩き 11/5(土) (自由参加)



第2回と第3回ワークショップの間に、有松地域を実際に見ていただく機会として、有松地域デザイン委員会の方に案内していただき、まち歩きを行いました。

この日は「晩秋の有松を楽しむ会」が行われ、多くの観光客が訪れている中で、有松の歴史的な町並みを見て、染色の工房も見学し、絞りについて学ぶ機会となりました。

第3回 11/9(水)

第3回から第4回は、4つのテーマ「技術の継承と革新」「稼ぎ方を考える」「エシカル」「有松らしさを徹底的に考える」ごとにグループに分かれて意見交換をスタートしました。

第3回は、各テーマで実現したいゴール（目標）やゴール達成のための取り組みについて話し合いました。各テーマの話し合いの結果を発表した後、人気投票を行い取り組みの絞り込みを行いました。

第3回 内容

- 晩秋の有松を楽しむ会の振り返り
- グループワーク1
晩秋の有松を楽しむ会の振り返りを受けて意見交換
- グループワーク2
 - ①実現したいゴール（目標）を立てよう
 - ②ゴール達成のための短期の取組を組み立てよう
（この2～3年の間で自分達で取り組みたいこと）
- グループ発表、取組の絞り込み（人気投票）



第4回 12/14(水)

第4回は、前回特に人気の高かった「染め直しフェス」「しぼりカー」に絞り込み、改めてSDGsの17のゴールや169のターゲットを読み込みながら全体で意見交換を行いました。そのあと、「①企画」「②人集め」「③自走の仕組み」と3つのグループに分かれてさらに検討し、SDGsアクション企画案を作成しました。

第4回 内容

- アクションの前提条件の確認
アクション（案）の説明
コンセプトやターゲットについて全体で意見交換
- グループワーク
 - ①企画、②人集め、③自走のしくみをグループ別で考える
- 発表
- 全体ワーク

SDGsとの関連を意識しながら、アクション企画案を作成！





<WS での課題や取り組み>

- ・エシカルブランド
- ・外国人向け（裕福層）
- ・ニーズ調査
- ・技術継承、後継者問題

- ・職人・住民みんなで循環をつくる
- ・新ブランドを作る
- ・綿を学校で育てる
- ・草木・コーヒー染料を使う

- ・来てもらうための発信
- ・染め直しフェス
- ・お祭りを通じた地域拠点
- ・町並みツアー

<SDGs アクション>

【染め替えフェス】

- ・しぼりカーで出張絞り
⇒有松を地域から出張し染めの体験

【草木染】

- ・生活アップサイクル、草木染
⇒①綿を育てる
②自然のもので染める
③生活の中で使う
④服
⑤布切れ／タオル
⑥ぞうきん
- ・古着を染める

→

染め直しフェス in FabCafe Nagoya 2/19

有松から都心の久屋大通りの
FabCafe Nagoya に出張し、
来訪者への染め直し体験と、
ホテルの廃棄リネンを染め直
して展示し、有松・鳴海絞りを
PR



<関連イベント>



染め直し体験 in 早恒染色 2/11

使わなくなったシャツなど
を持ち込んで染め直し体験
再び使えるように



愛着のある一枚を染め直そう in アリマツマーケット 3/5

地元のイベントであるアリマツ
マーケットで染め直し体験を実施



有松地域デザイン委員会では、令和5年度に7つのSDGsアクションを実施し、SDGsの地域への浸透に努めました。

有松 令和5年度SDGsアクション一覧

1. ジェイアール名古屋タカシマヤ 「やさしい暮らし展」染め直し体験	令和5年5月17～22日
2. 有松絞りまつり「そうなる!?! 有松絞りの浴衣展」	6月3・4日
3. 有松ゆかたまつり「藍のたたき染め体験」	8月11日
4. 錦二丁目「みちにわ2023」珈琲で染める絞り体験	10月21日
5. 晩秋の有松「見て触れる木綿 綿花から糸紡ぎ体験」	10月28・29日
6. 学びのツアー 知多木綿ツアー	9月29日
常滑藍染工房見学ツアー	令和6年1月16日

<概要>

ジェイアール名古屋タカシマヤの社内で発足した SDGs 部の企画により、SDGs の課題に取り組む「やさしい暮らし展」が開催され、地元の活性化をめざして有松絞りを身近に感じてもらうための「有松絞り 絞り染め体験」が開催されました。染め体験（手ぬぐい・ハンカチ）には42人、46点が参加、染め直し体験には14人、16点が参加されました。



<他団体の協力>

ジェイアール名古屋タカシマヤの協力により実現しました。

<関係するSDGs17の目標>



有松 2 有松絞りまつり「そうなる?!有松絞りの浴衣展」 令和5年6月3日(土)・4日(日)

<概要>

毎年6月に行われ、今回で第39回目を迎える有松絞まつりのプログラムの1つとして、有松絞りの素材である綿花や藍、そして浴衣ができるまでの一連のプロセスをめぐる展示を実施しました。参加者には、藍と綿の苗および種を配布し、会期中には苗、種を合わせて100名近くの方が受け取りました。

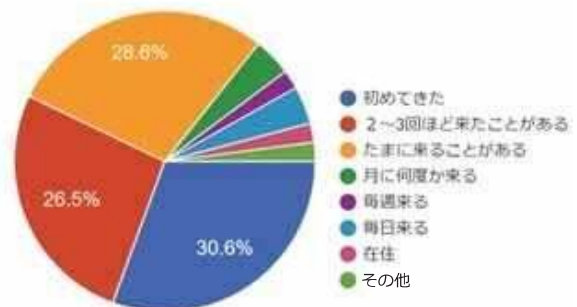
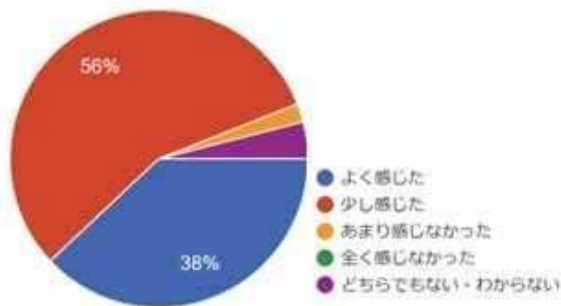


<他団体の協力>

南医療生活協同組合、長者町錦コットンプログラムの協力により、藍と綿の苗および種を配布しました。

<アンケート結果>

SDGs のめざす未来や取り組みについて このエリアに来たことはありますか？
親近感や身近さを感じましたか？



<関係するSDGs 17の目標>



有松 3 有松ゆかたまつり「藍のたたき染め体験」

令和5年8月11日(木・祝)

<概要>

有松東海道一円とイオンタウン有松で開催される「有松ゆかたまつり」の中で、藍の苗の生葉を用いた「たたき染め」体験ワークショップを実施しました。手ぬぐいの布などに愛の葉を挟んでたたいたり擦ったりすることで葉の柄を写し取りました。

また展示会場では、6月の有松絞りまつりで配布した藍の葉が成長する様子を紹介する展示パネルも設置しました。



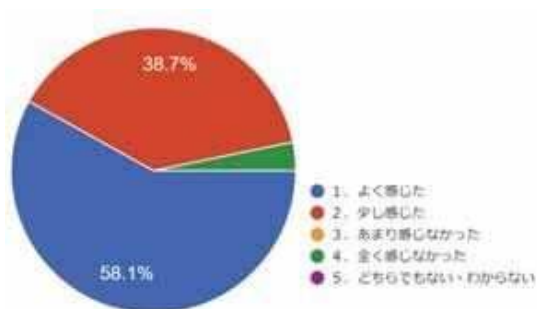
<他団体の協力>

イオンタウン有松の協力より体験・展示スペースを提供していただきました。

<アンケート結果>

SDGs のめざす未来や取り組みについて
親近感や身近さを感じましたか？

有松に来たことはありますか？



n=31



n=32

この事業を通じて、SDGs のめざす未来や取り組みについて親近感や身近さを「よく感じた」が 58.1%、「少し感じた」が 38.7%となりました。また、有松に何度か来たことがある（たまに来る、月に何度か来る、毎週来る、毎日来る）人が約 53%となり、自由回答からは「子どもが楽しめた」「自然を大切に、自然素材を活用するのはいいこと」などの回答も得られ、有松を何度か訪れる人達の楽しい体験になったようです。

<関係するSDGs 17の目標>



有松 4 錦二丁目「みちにわ 2023」珈琲で染める絞り体験

令和5年10月21日(土)

<概要>

中区錦二丁目長島町通りで開催される「みちにわ 2023」の中で会場テントを設置し、錦二丁目の「喫茶七番」から提供された抽出後の珈琲の粉を染料として、有松の絞り業者の倉庫に眠っていた絞り加工済みのランチョンマットを染める体験を行いました。また、会場テントでは有松絞りで染めた生地を用いた設営や、翌週の晩秋を有松を楽しむ会 2023 での展示・ワークショップの PR も行いました。



<他団体の協力>

錦二丁目エリアマネジメント(株)の協力により実施しました。

<関係するSDGs17の目標>



有松 5 晩秋の有松「見て触る木綿 綿花から糸紡ぎ体験」

令和5年10月28日(土)・29日(日)

<概要>

有松東海道一円で開催される「晩秋の有松を楽しむ会 2023」の中で、有松絞りまつりで配布した木綿の苗から収穫した綿花を用いて、そして糸を紡いでみる「スピンドル体験」ワークショップや、綿花から糸ができるまでの展示を有松地域デザイン委員会が進める「イクセン（育染・幾千）プロジェクト（右下図）」として展開しました。

また、9月に行った知多木綿ツアーを通じて学んだ有松絞りとのつながりの深い知多木綿のルーツ、製造工程、そして産業の現状について今回の企画で紹介しました。

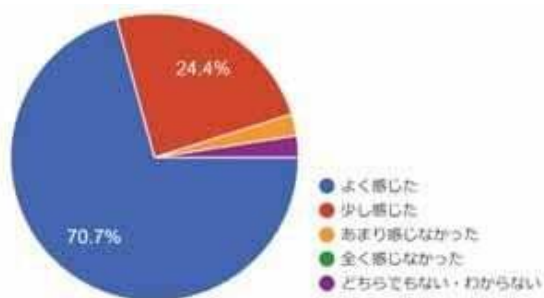


<他団体の協力>

長者町錦コットンプロジェクト、南医療生活協同組合の協力により実施しました。

<アンケート結果>

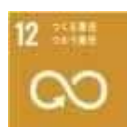
SDGs のめざす未来や取り組みについて親近感や身近さを感じましたか？



n=31

「よく感じた」が70.7%、「少し感じた」が24.4%となりました。

<関係するSDGs 17の目標>



有松 6 学びのツアー 令和5年9月29日(金)、令和6年1月16日(火)

<概要>

知多木綿の成り立ちなどを学ぶため、9月には知多市歴史民俗博物館、知多木綿発祥の知多市岡田地区にある手織りの里「木綿蔵・ちた」、阿久比町にある機織り工場をリノベーションして地域の物産品を販売する「d news aichi agui」と知多木綿の織元の新美(株)などを訪問し、綿花から反物になるまでの工程等を見学しました。1月には、常滑市にある藍染工房「紺屋のナミホ」を見学し、染の体験も行いました。



<他団体の協力>

木綿蔵・ちた、d news aichi agui、新美(株)、紺屋のナミホなどの協力により実施しました。

<関係するSDGs17の目標>



熱田湊 「真夏の夜の浜おどり」

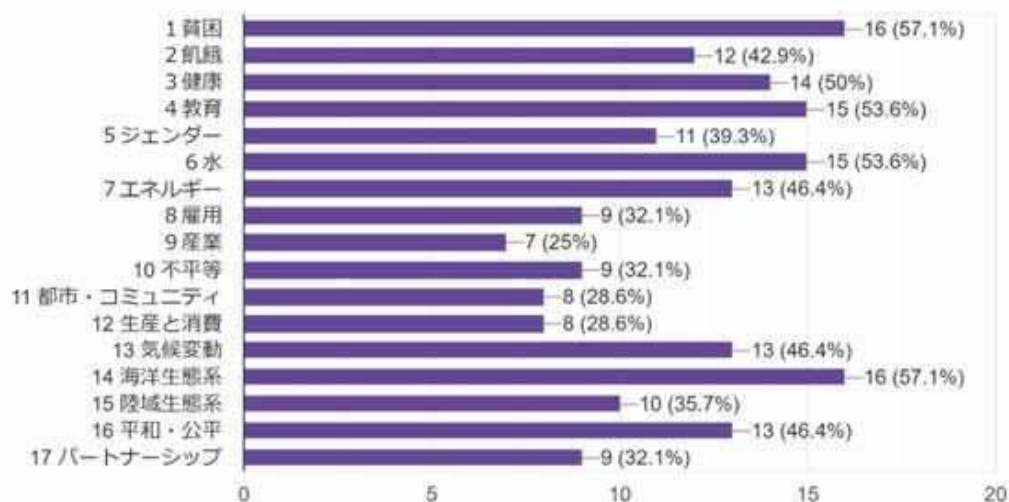
Q1. SDGs（持続可能な開発目標）についてご存知でしたか？（1つ）

29 件の回答



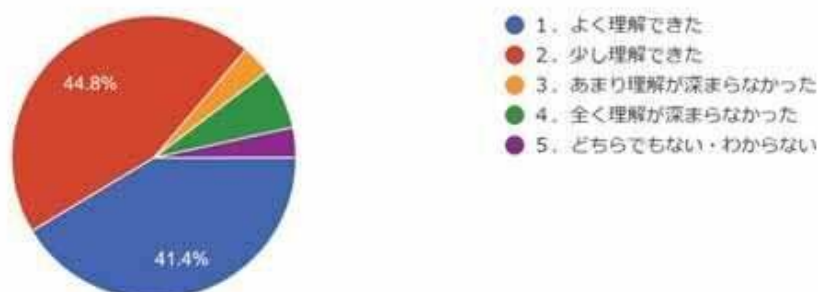
Q2. SDGs の各ゴールのうち、興味のある番号を教えてください（いくつでも）

28 件の回答

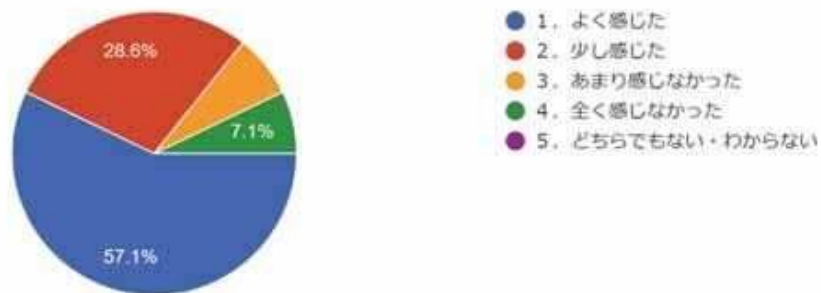


Q3. 今回のイベントを通じて（1）SDGs への取り組みについて理解が深まりましたか？（1つ）

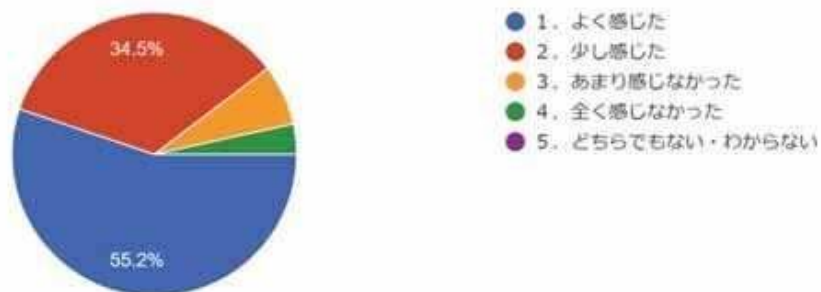
29 件の回答



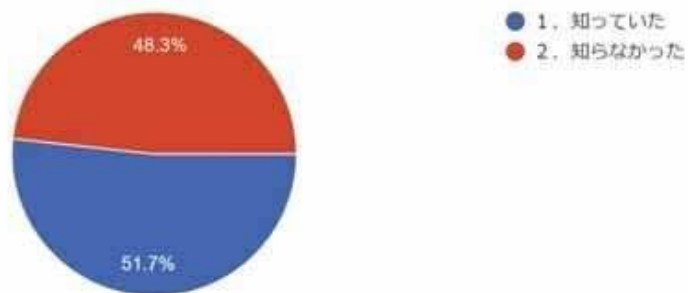
(2) SDGs のめざす未来や取り組みについて親近感や身近さを感じましたか？ (1つ)
28 件の回答



(3) SDGs の達成に向けて自分でもできることがあると感じましたか？ (1つ)
29 件の回答

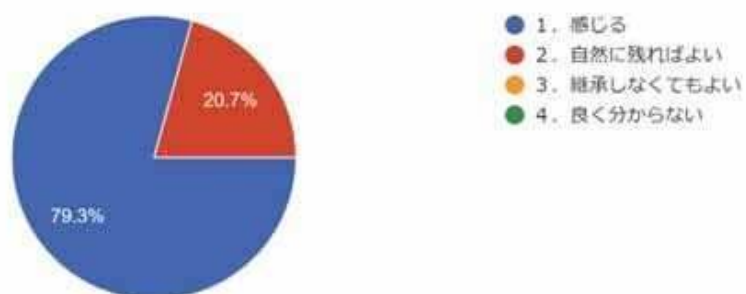


Q5.
伝統文化について (1つ) (1) 都々逸 (どどいつ) が熱田区発祥だということを知っていましたか？
29 件の回答



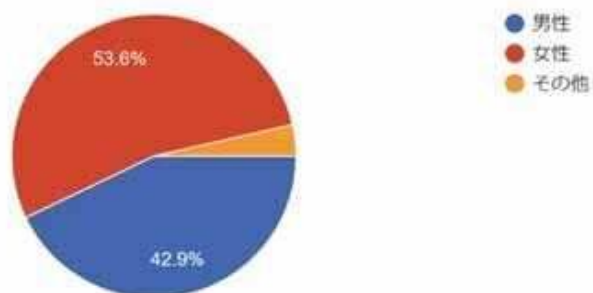
(2) 熱田区の伝統文化として継承していくべきものと感じますか

29 件の回答



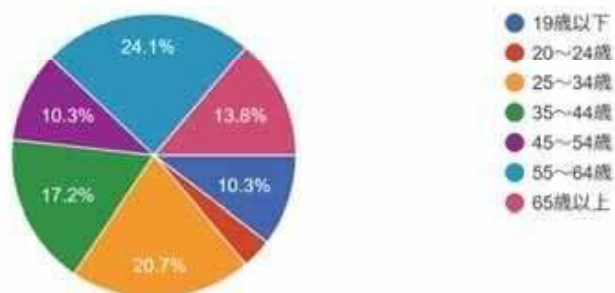
Q6. あなたご自身について (1) 性別

28 件の回答



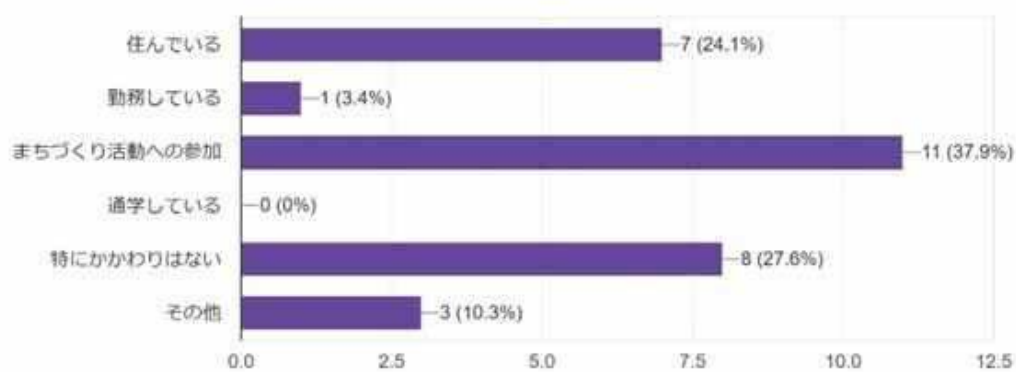
(2) 年齢

29 件の回答



(3) 宮の渡し・大瀬子地区との関わり（当てはまるものすべてに○）

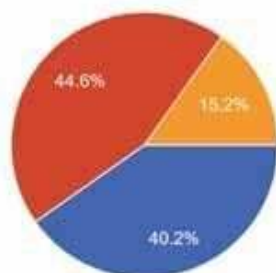
29 件の回答



熱田湊 SDGs 講演会&コンサート

SDGs（持続可能な開発目標）についてご存知でしたか？

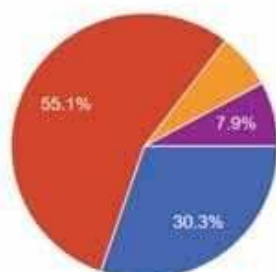
92 件の回答



- 知っている
- 聞いたことはあるが、内容は知らない
- 知らない

SDGs への取り組みについて理解が深まりましたか？

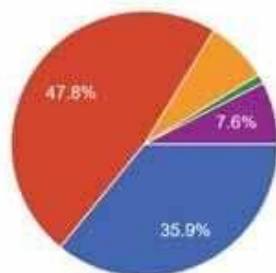
89 件の回答



- よく理解できた
- 少し理解できた
- あまり理解が深まらなかった
- 全く理解が深まらなかった
- どちらでもない・わからない

SDGs のめざす未来や取り組みについて親近感や身近さを感じましたか？

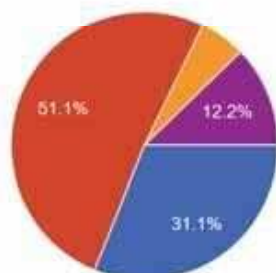
92 件の回答



- よく感じた
- 少し感じた
- あまり感じなかった
- 全く感じなかった
- どちらでもない・わからない

SDGs の達成に向けて自分でもできることがあると感じましたか？

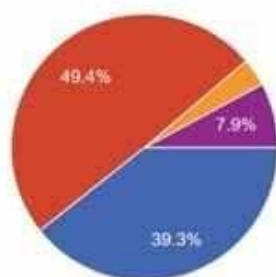
90 件の回答



- 色々あると感じた
- 少しあると感じた
- あまりあると感じなかった
- 全くあると感じなかった
- どちらでもない・わからない

今後、熱田湊まちづくり協議会とともにSDGsを進めていこうと思いますか？

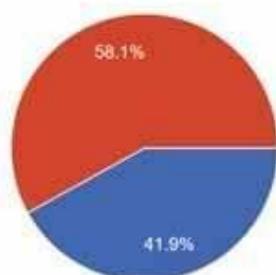
89 件の回答



- とてもそう思う
- まあそう思う
- あまり思わない
- 全く思わない
- どちらでもない・わからない

性別

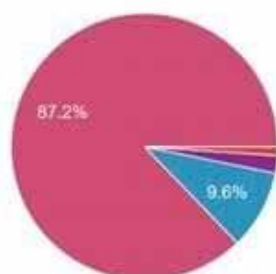
93 件の回答



- 男性
- 女性

年齢

94 件の回答

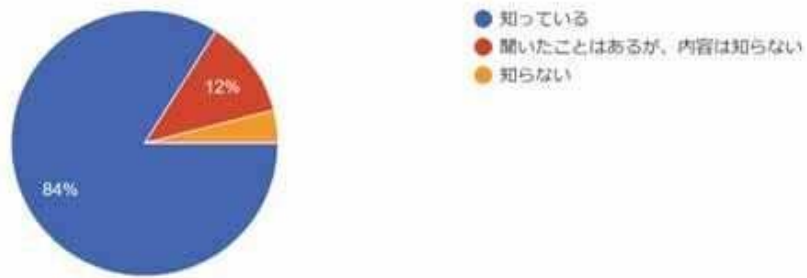


- 19歳以下
- 20～24歳
- 25～34歳
- 35～44歳
- 45～54歳
- 55～64歳
- 65歳以上

有松 有松絞りまつり「そうなる?!有松絞りの浴衣展」

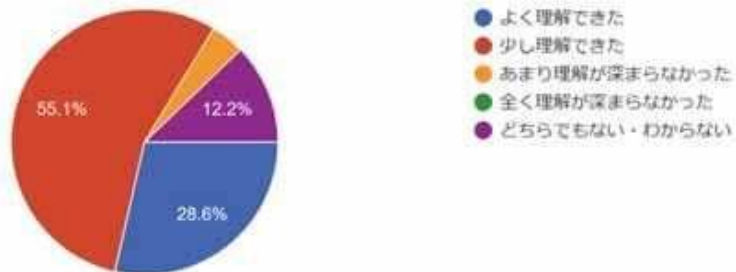
SDGs（持続可能な開発目標）についてご存知でしたか？

50 件の回答



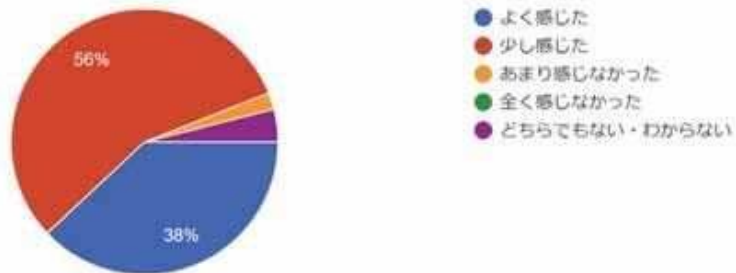
SDGs への取り組みについて理解が深まりましたか？

49 件の回答



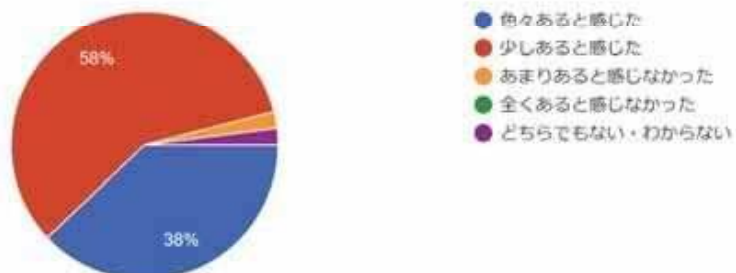
SDGs のめざす未来や取り組みについて親近感や身近さを感じましたか？

50 件の回答



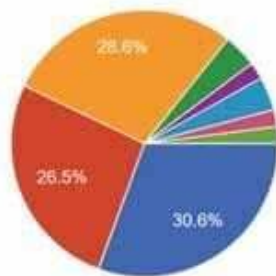
SDGs の達成に向けて自分でもできることがあると感じましたか？

50 件の回答



これまでにこのエリアに来たことはありますか

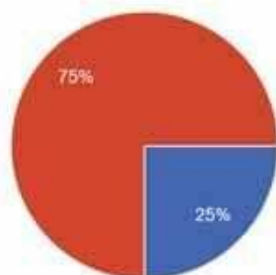
49 件の回答



- 初めてきた
- 2～3回ほど来たことがある
- たまに来ることがある
- 月に何度か来る
- 毎週来る
- 毎日来る
- 在住
- その他

性別

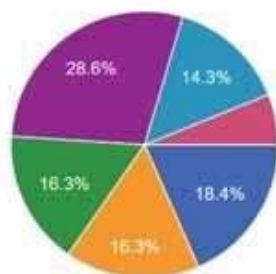
48 件の回答



- 男性
- 女性

年齢

49 件の回答



- 19歳以下
- 20～24歳
- 25～34歳
- 35～44歳
- 45～54歳
- 55～64歳
- 65歳以上

有松 有松ゆかたまつり「藍のたたき染め体験」

Q1. SDGs（持続可能な開発目標）についてご存知でしたか？（1つ）

32 件の回答



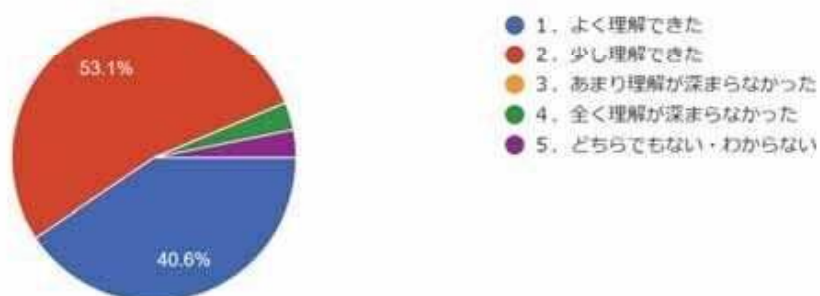
Q2. SDGs の各ゴールのうち、興味のある番号を教えてください（いくつでも）

32 件の回答



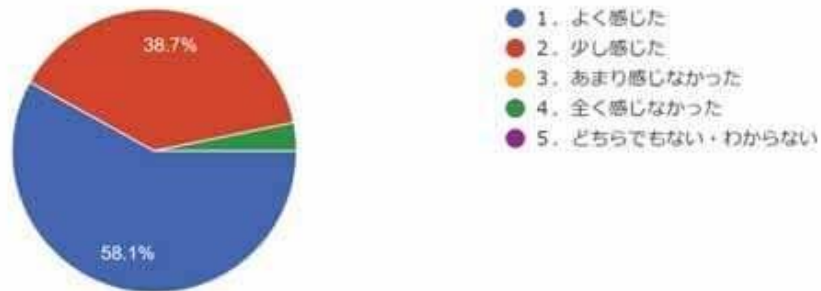
Q3. 今回のイベントを通じて（1）SDGs への取り組みについて理解が深まりましたか？（1つ）

32 件の回答



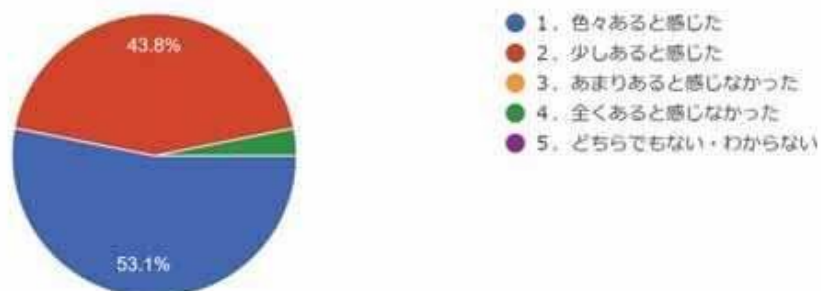
(2) SDGs のめざす未来や取り組みについて親近感や身近さを感じましたか？ (1つ)

31 件の回答



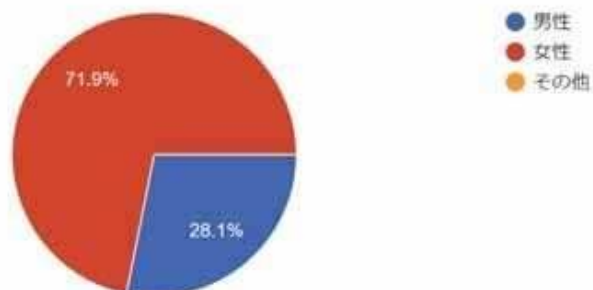
(3) SDGs の達成に向けて自分でもできることがあると感じましたか？ (1つ)

32 件の回答



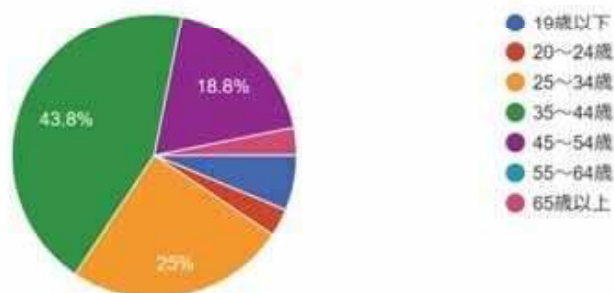
Q5. あなたご自身について (1) 性別

32 件の回答



(2) 年齢

32 件の回答



有松 コーヒーで染める有松絞り体験

SDGs（持続可能な開発目標）についてご存知でしたか？

5件の回答



- 知っている
- 聞いたことはあるが、内容は知らない
- 知らない

SDGs への取り組みについて理解が深まりましたか？

5件の回答



- よく理解できた
- 少し理解できた
- あまり理解が深まらなかった
- 全く理解が深まらなかった
- どちらでもない・わからない

SDGs のめざす未来や取り組みについて親近感や身近さを感じましたか？

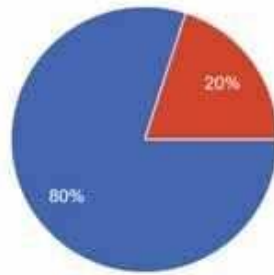
5件の回答



- よく感じた
- 少し感じた
- あまり感じなかった
- 全く感じなかった
- どちらでもない・わからない

SDGsの達成に向けて自分でもできることがあると感じましたか？

5件の回答



- 色々あると感じた
- 少しあると感じた
- あまりあると感じなかった
- 全くあると感じなかった
- どちらでもない・わからない

有松に行ったことはありますか

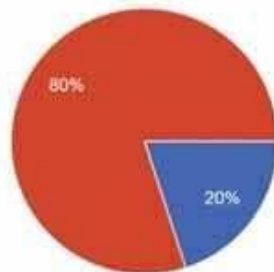
5件の回答



- 1度
- 2～3回程度
- たまに行く
- 月に何度か行く
- 毎週行く
- ほぼ毎日行く
- ない

性別

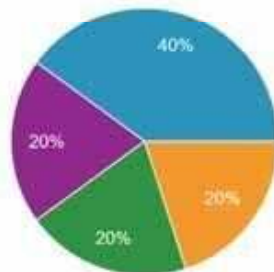
5件の回答



- 男性
- 女性

年齢

5件の回答

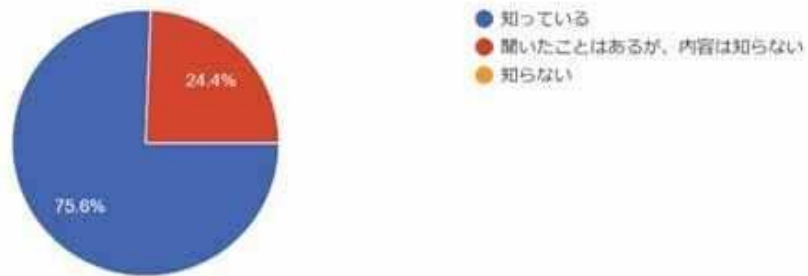


- 19歳以下
- 20～24歳
- 25～34歳
- 35～44歳
- 45～54歳
- 55～64歳
- 65歳以上

有松 晩秋の有松「見て触る木綿 綿花から糸紡ぎ体験」

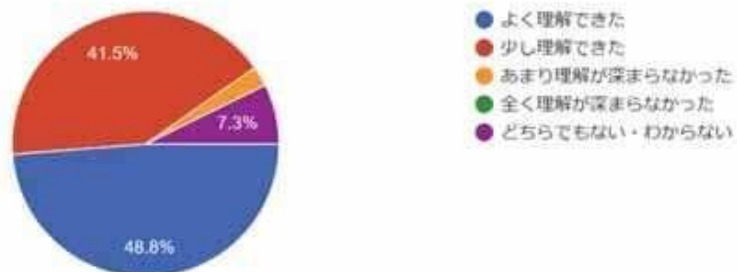
SDGs（持続可能な開発目標）についてご存知でしたか？

41 件の回答



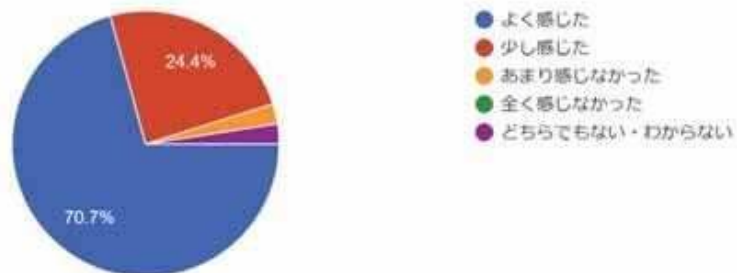
SDGs への取り組みについて理解が深まりましたか？

41 件の回答



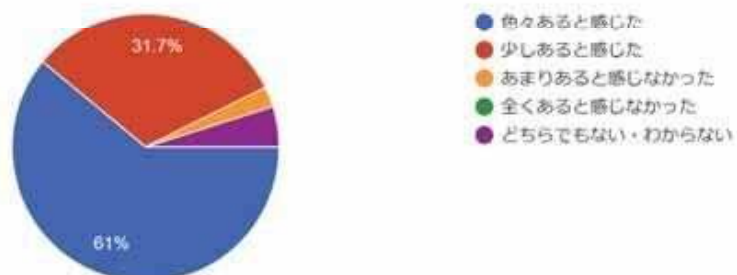
SDGs のめざす未来や取り組みについて親近感や身近さを感じましたか？

41 件の回答



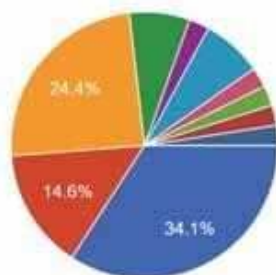
SDGs の達成に向けて自分でもできることがあると感じましたか？

41 件の回答



これまでにこのエリアに来たことはありますか

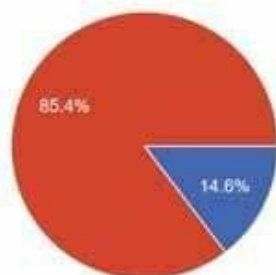
41 件の回答



- 初めてきた
- 2～3回ほど来たことがある
- たまに来ることがある
- 月に何度か来る
- 毎週来る
- 毎日来る
- 住んでいる。
- 住んでいる
- 実家が有松です
- 住んでいます

性別

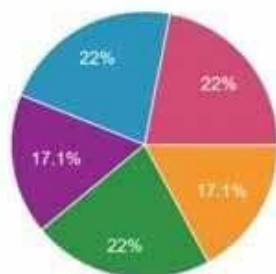
41 件の回答



- 男性
- 女性

年齢

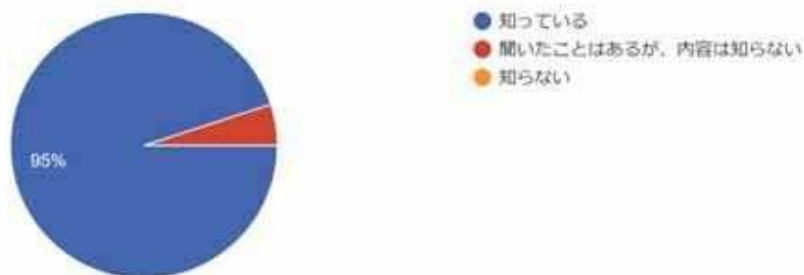
41 件の回答



- 19歳以下
- 20～24歳
- 25～34歳
- 35～44歳
- 45～54歳
- 55～64歳
- 65歳以上

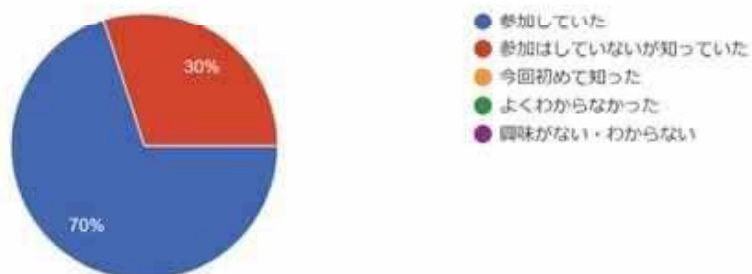
SDGs（持続可能な開発目標）についてご存知でしたか？（1つ）

20 件の回答



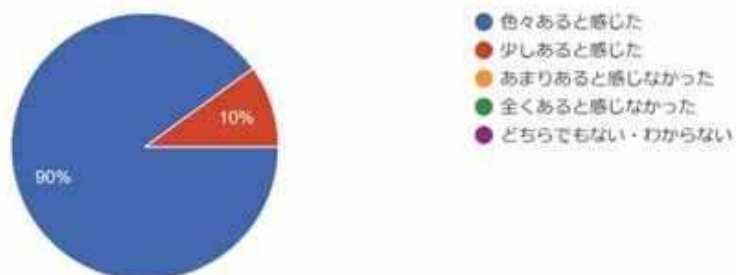
SDGsまちづくり推進事業の取り組みをご存知でしたか？（1つ）

20 件の回答



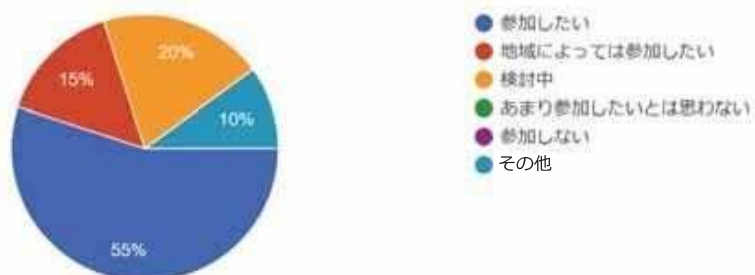
SDGsの達成に向けて自分でもできることがあると感じましたか？（1つ）

20 件の回答

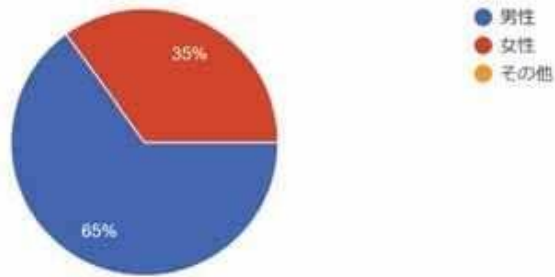


来年度、またこの事業が行われるとしたら、参加したいですか？

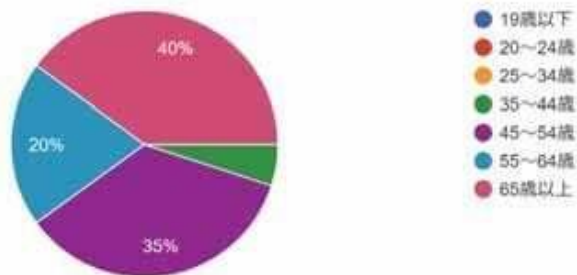
20 件の回答



性別
20 件の回答



年齢
20 件の回答



所属
20 件の回答



この報告会をどのように知りましたか
18 件の回答



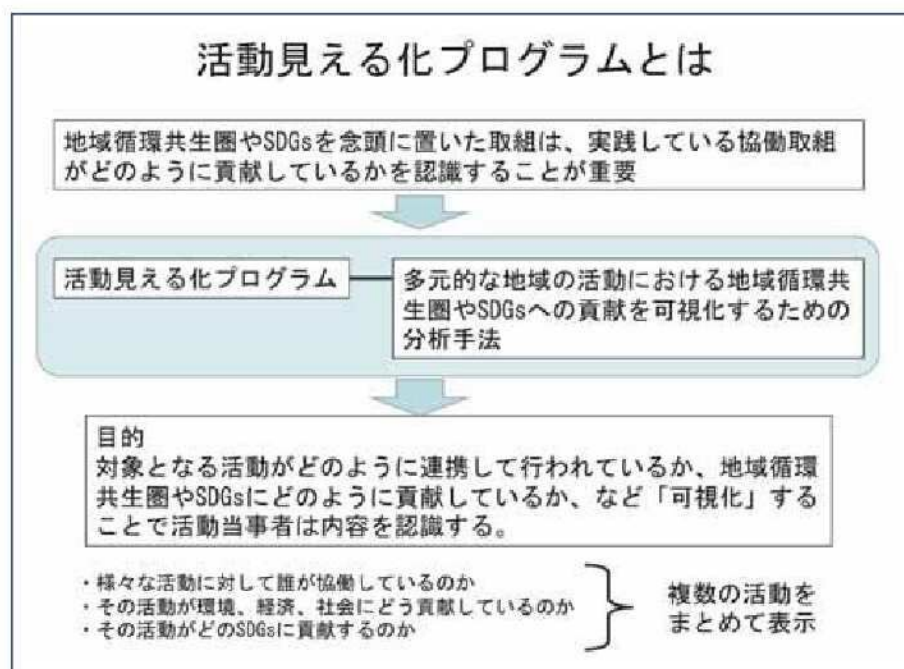
「活動見える化プログラム」によるSDGs評価分析

●「活動見える化プログラム」とは

環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部内)が独自ツールとして構築した「活動見える化プログラム」は、多元的な地域の活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化するための分析手法です。

このプログラムによる分析を通じて、対象となる活動がどのような経緯で行われてきたか、現在どのように連携して行われているか、地域循環共生圏やSDGsにどのように貢献しているかなどを「可視化」していきます。

このチャート図及びその作成過程を通じて、活動当事者による活動内容の振り返りや自覚化が可能になるとともに、活動者は第三者などにこのチャート図で活動内容を説明する資料として活用できます。



環境省中部環境パートナーシップオフィスホームページ



(環境省中部環境パートナーシップオフィスホームページより)

●今回の活用の仕方

今回、評価分析表を作成して見える化をするにあたり、EPO中部から提供されているさまざまな可視化ツールの中から、個々の取り組みとSDGsの関係を考える「SDGsワークシート」(通称U字シート)を活用し、個々のSDGsアクションについて見える化を図りました。

アクションの都度、169のターゲットまたは232の指標を照らし合わせて確認し、どのゴール達成に貢献できるかを検討しました。ターゲットは世界視点で書かれているため、まちや地域の視点に落とし込んで見える化を図りました。

例:11.4「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する」

⇒熱田湊地域や有松地域の歴史的・文化・技術の保護・保全の努力の強化

(1) まずはU字シートでSDGsアクションがどのゴールに貢献したかを可視化



中心にSDGsアクションの取り組みを記載

黒矢印で貢献したゴールを示し内容を記載

赤矢印で阻害したゴールを示し阻害要因を記載

貢献とともに阻害要因を記載することで、「阻害しないようにした時に、他のゴールへの貢献に対して影響がないか」や「貢献と阻害を両立させる方法は何かなど」を考えることができ、SDGsウォッシュにならない取り組みを検討することができます。(例では化学染料での染めのため、化学物質が流出してしまうことが阻害要因)

(2) U字シートの内容を評価分析表に記載(今回は環境圏を中心に記載)



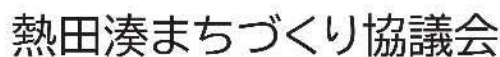
今回、この事業で初めて連携・協働したステークホルダー

今回のSDGsアクション

環境圏に貢献

社会圏に貢献

←関連したゴールを明示



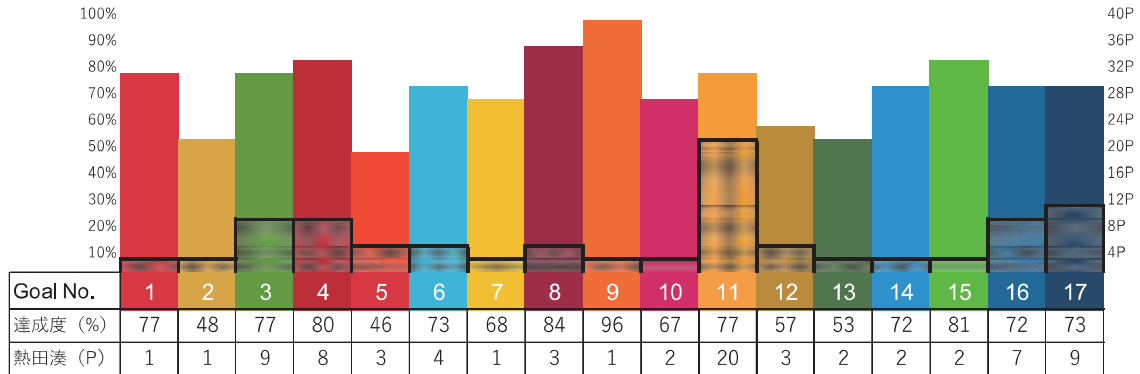
●SDGs活動の意義(評価)分析



●SDGsアクションの詳細分析

U字シートでゴールに貢献した内容1つにつき1Pointとして換算し、全国の達成度%と比較しました。すべてのゴールに貢献しており、また、SDGsを地域に浸透させる取り組みのためゴール11は突出して高い結果となりました。ゴール3, 4, 17も高く、「熱田の誇りを次世代につなぎ誰もが生き生きと暮らすことができるまち」の実現につなげようとしたことが分かります。

全国と比べても注力しているゴールに地域特性が出た結果となりました。



SDG Achievement Level 2022:「2030 年までの道筋: 地方自治体 SDGs 達成度評価 2023」(UNCRD)より

**熱田湊の
Good Point!**

①明確なビジョンがあった！ ⇒熱田湊まちづくり協議会全体で共有

地域全体の目標が明確だったため、バックカスティングがうまくいきました。

●バックカスティングとは

バックカスティングとは、望ましい未来の姿から「その実現のために今やるべきことを考える」思考法で、SDGsはバックカスティングを基本としている。

あるべき姿から逆算して
何をすべきかを考える
(バックカスティング)

SDGsの
あるべき姿
(2030年)

現在

現状でも達成可能な範囲の未来

現状の延長でできることは何かを考える
(フォアカスティング)

**熱田湊の
Good Point!**

②多くのステークホルダーや意見を受け入れる寛容さがあった！

たくさんのステークホルダーと様々な意見を、考え方が違ってても受け入れたら、ステークホルダーが熱田湊のために何ができるかを考えて、結局、発言しただけにならず、誰もが当事者となって、楽しく熱田湊に関わることができました。

●SDGsまちづくりのワークショップルール

- ・地域課題解決のためのアイデアは何を言っても良い！
無責任にアイデアを出すことで、思ってもいないアイデアが出てくる
- ・出てきた意見やアイデアを否定しない
- ・明るく、楽しく、ストレスレス

言っぱなし最高！

みんなの想いを大切に

熱田湊の Good Point!

③SDGsの考え方を大切にしてSDGsアクションを実施した

熱田湊まちづくり協議会は、17. パートナーシップを軸に、たくさんのステークホルダーを受け入れ、様々なアイデアを、環境を切り口とした視点から実施しました。そのため、地域循環共生圏貢献の三側面（経済・社会・環境）の内容数が、SDGsのウェディングケーキモデルの概念と同じ結果となりました。

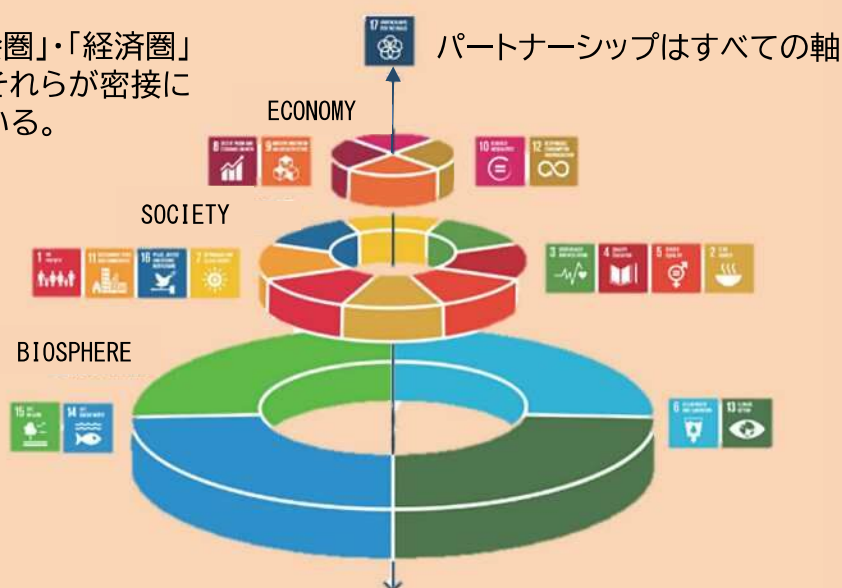
1年間のSDGsアクションで、全てのゴールになんらかの貢献をすることができた。

●SDGs ウェディングケーキモデル

下から順に「生物圏」・「社会圏」・「経済圏」の三層構造となっており、それらが密接に関わっていることを表している。

下層が安定して初めて上層の発展があり、「環境」なくして「社会」は成り立たず、「社会」なくして「経済」は発展しないことが示されている。

SDGsの達成によってめざす社会は、自然環境の持続可能性をベースに作られており、あらゆる持続可能性の大前提になっている



担当者のつぶやき

～ちょっとひといき Break Time～

令和4年度に熱田湊まちづくり協議会と有松地域デザイン委員会の2団体と、SDGsまちづくり推進事業がスタートしました。

当然のことながら、両団体とも地域での活動にとっても熱い想いと信念を持っており、私たちは「この人たち、熱い…熱すぎる!」とひるむことばかり。そのため、この事業はちゃんと進んでいくのだろうかと思うと、不安で眠れぬ夜を過ごすこともありました。

そんな環境局のポンコツ担当者を、両団体・地域とも心広く受け入れてくださり、またこの事業支援の受託者である株式会社スペースアの方々の上手な先導・調整により、なんとかSDGsアクションにこぎつけることができました。

が、しかし! SDGsアクションを実施するにあたり、両団体と同じくらい熱い思いを持つステークホルダーがたくさん登場!! 私たちは熱意に火傷しそうになりながらも、とても楽しくSDGsアクションを実施することができました。

この熱意でSDGsウェディングケーキが焼きあがったに違いありません。

●参考：熱田湊まちづくり協議会のSDGsアクションU字シート

【6/18】ボタニカルライトの設置



- ・堀川まちネットの堀川清掃と同日に実施
- ・令和4年度の設置に続き2台目

【8/20】真夏の夜の浜おどり（都々逸）



- ・午前：堀川清掃と海洋汚染に関するセミナー
- ・午後：都々逸の生演奏盆踊りや帯締め教室

【10/15(5/24準備)】葦の植樹



- ・企業から水を浄化する作用がある土を5トン寄付してもらい、堀川右岸に敷設し葦を植樹

【10/25】SDGs講演会&コンサート



- ・国連（UNCRD）の講演と楽団によるコンサート
- ・SDGs学区宣言を実施（白鳥学区）

EPD中部／中部地方ESD活動支援センター提供
SDGs17ゴール・ワーキング用シート

テーマ：子ども図書館と交流の場

地域主導の子ども向け
私設図書館の設置
歴史・バネルを展示すると
ともに、異世代の交流の
場として活用

図書館の生きがい創出
子育て中の親子の交流
歴史文化の学び
歴史・バネルを展示する機会創出
歴史を知らない子育ての支援
全ての人の能力の強化 社会への関わり方の促進

図書館に開く
全ての人の協働
子どもの状況把握
居場所づくり

地域の歴史文化の伝承
完全な店舗の活用による公共スペースの提供
様々な世代の活躍の場の提供
地域の良好な暮らしの支援

17 持続可能な開発目標 (SDGs)

1 持続可能な開発目標 (SDGs)

2 持続可能な開発目標 (SDGs)

3 持続可能な開発目標 (SDGs)

4 持続可能な開発目標 (SDGs)

5 持続可能な開発目標 (SDGs)

6 持続可能な開発目標 (SDGs)

7 持続可能な開発目標 (SDGs)

8 持続可能な開発目標 (SDGs)

9 持続可能な開発目標 (SDGs)

10 持続可能な開発目標 (SDGs)

11 持続可能な開発目標 (SDGs)

12 持続可能な開発目標 (SDGs)

13 持続可能な開発目標 (SDGs)

14 持続可能な開発目標 (SDGs)

15 持続可能な開発目標 (SDGs)

16 持続可能な開発目標 (SDGs)

- EPO中部／中部地方ESD活動支援センター提供
SDGs17ゴール・ワーキング用シート
- テーマ：年末ごみ大勝利！ プログミング×ワーキング×フロンティア
-

- [illegible]

- EPO中部／中部地方ESD活動支援センター提供
SDGs17ゴール・ワーキング用シート
- テーマ1 防災講演会
-
- SDGsを学ぶ講演会とSDGs推進卒生の宣言を行うとともに、音楽を通じて地域内の交流をはかる。
- 地域企業や団体との協働
- あらゆる人の参加
- 音楽による安らぎの提供
- 防災教育の提供
- 災害による死者や被害者の削減
- 地域へのSDGsの浸透

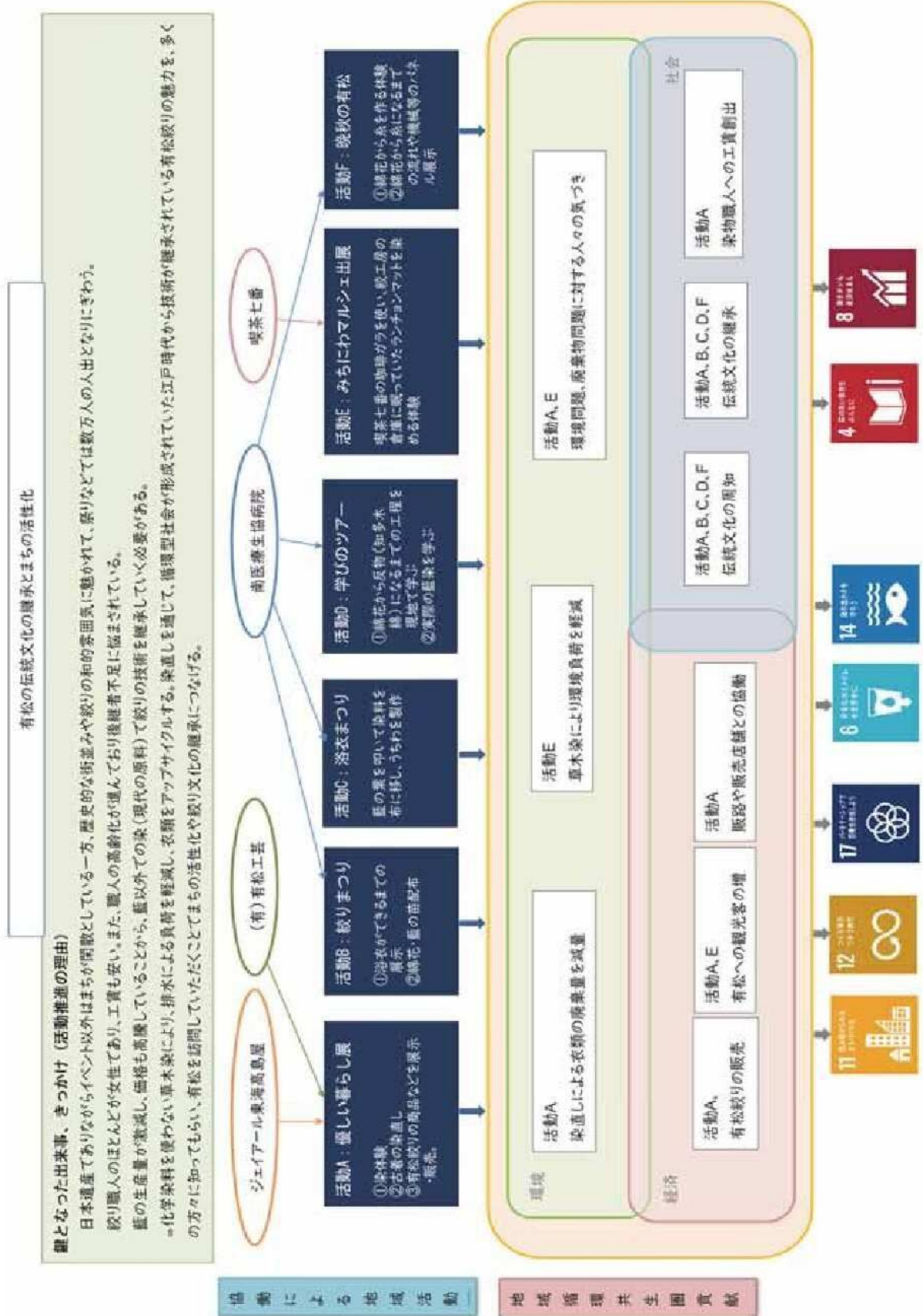
- 53



有松地域デザイン委員会

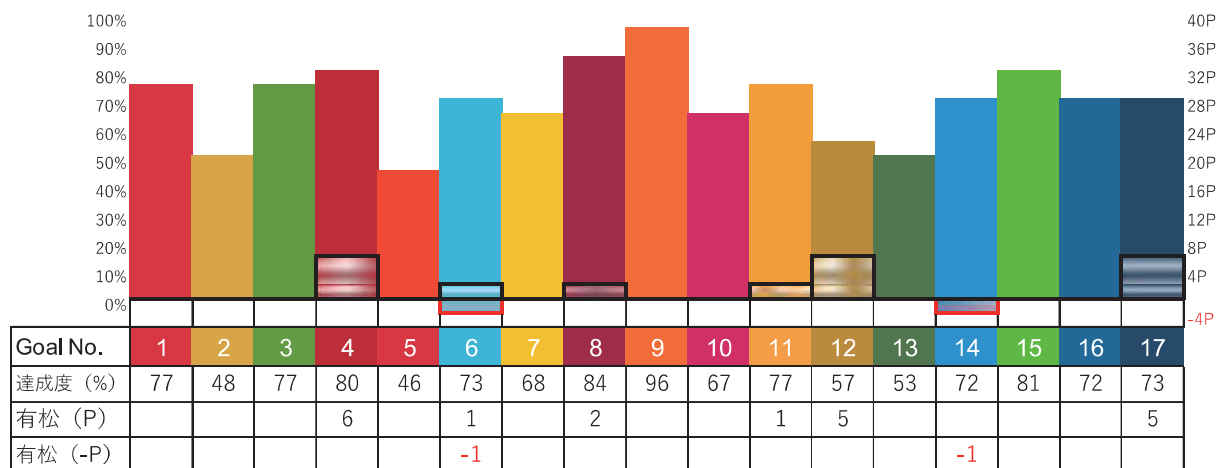
循環型社会が形成されていた江戸時代の技術の継承

●SDGs活動の意義(評価)分析



●SDGsアクションの詳細分析

U字シートでゴールに貢献した内容1つにつき1Pointとして換算し、全国の達成度%と比較しました。6つのゴールに貢献するも、化学染料の染直しによる水質汚染により、2つのゴールについてのマイナス要素も出現しました。
伝統ある「絞り」に特化したため、4,12は他と比べてポイントが高く、地域特性が現れました。



SDG Achievement Level 2022:「2030 年までの道筋:地方自治体 SDGs 達成度評価 2023」(UNCRD)より

有松の
Good Point!

①苗を配布し、つながることで有松が「観光地」から「関係地」に変身！

イベント時にのみ足を運ぶ観光客に藍の苗や綿の苗を配布し、LINEグループでつながることにより、観光客を新たな関係者にしていく取り組みで、持続的に有松と関わってもらえる楽しい仕掛けを実施しました。

絞りを「自分事」に
できるアイデア！

●イクセン(幾千・育染)プロジェクト

- ・有松で「たくさんのひと」と「藍と綿を育て」て「絞り染め文化を受け継ぐ」ための活動
- ・6月の有松絞りまつりで藍と綿の苗を合計60苗程度配布、種を合わせると約100名が受け取り、LINEグループに登録。

有松の
Good Point!

②今できることをコツコツと、フォアキャスティングで次につなげる

知多木綿や藍染を行っている現地まで行き、学びや気づき、つながりを得るなどし、次の試みにつなげています。

化学染料を使わない染を

●moss Arimatsu の整備

- ・明治時代に建てられた古民家を改修しレンタルキッチンやレンタルスペースを置くとともに、コミュニティスペースで藍や綿花などを地域住民らと育てる予定。
- ・将来的には草木染やコットンボールから糸を撚るなどの体験などができるようにする

●参考：有松地域デザイン委員会のSDGsアクションU字シート

【5/17～22】やさしい暮らし展

EPO中部／中部地方ESD活動支援センター提供
SDGs17ゴール・ワーキング用シート



- ・ジェイアール名古屋タカシマヤに出展
- ・古着の染直しなど染体験を実施

【6/3, 4】有松絞りまつり出展

EPO中部／中部地方ESD活動支援センター提供
SDGs17ゴール・ワーキング用シート



- ・有松絞りまつりに出展
- ・有松絞りの浴衣ができるまでの一連のプロセスをたどるパネルなどの展示
- ・合計60苗程度の藍と綿の苗の配布
- ・103名のLINEグループ登録

【8/11】有松ゆかたまつり出展

EPO中部／中部地方ESD活動支援センター提供
SDGs17ゴール・ワーキング用シート



- ・藍の葉を使って布にたたき染を行い、うちわを作るワークショップを実施

【9/29, 1/16】学びのツアー

EPO中部／中部地方ESD活動支援センター提供
SDGs17ゴール・ワーキング用シート



- ・知多木綿の成り立ちなどを学ぶため、綿花から反物になるまでの工程等を見学
- ・藍染工房の見学、染の体験

【10/21】みちにわ2023出展



- ・錦二丁目で行われている「みちにわマルシェ」に出展
- ・珈琲がうを使ったランチョンマットの染体験
- ・化学染料を使わない染を実施

【10/28,29】晩秋の有松出展



- ・晩秋の有松に出展
- ・綿花から糸を撚る体験ワークショップを実施
- ・綿花から糸になるまでの流れや機械等が分かるパネル等の展示

担当者のつぶやき

～ちょっとひといき Break Time～

熱田湊まちづくり協議会も、有松地域デザイン委員会も、地域や伝統文化、そして将来に向けて、熱い思いを持って真剣に向き合っている団体でした。

しかしながら、「思い」だけで動くとは主観的になってなんでも良いことのように思えてしまいます。SDGsの取り組みは、さまざまな要因が複雑に絡み合っており、目の前のひとつの課題対策だけでは、根本的な解決になりません。その対策が他の課題に悪影響を与えて、結果的に地域全体に負の効果をもたらすこともあります。

令和4年度に実施したワークショップでは、素敵な意見をたくさんいただくことができました。このアイデアの種を、主観的にならず、できる限り効果的に「SDGsアクション」として実施していくためにどうしたら良いかを悩んでいた時に、EPO中部の見える化評価を知りました。

これにより、各SDGsアクションを可視化することで、ひいき目や謙遜といった「感情」を取り除き、客観的に評価しながらSDGsアクションを実施することができました。

特に熱田湊は、SDGsの考え方をかなり取り入れて、環境の視点を持ってアクションを実施したため、SDGsウェディングケーキモデルの概念が評価分析表に現れました。

この評価分析表の見える化評価のクオリティの高さを再認識するとともに、これを快くご提供くださったEPO中部の原理史先生に深く感謝申し上げます。

持続可能な開発に関するグローバルレポート(GSDR2023)より

GSDR2023って
なあに？

国連が9月12日に発表した「グローバル持続可能な開発報告書2023」のことで
4年に一度発表される、世界のSDGsの進捗を分析した報告書です。

・日本はSDGsの認知度が9割と非常に高いが、SDGsの進捗度は世界で21位

本市のSDGs認知度
と行動の比較

名古屋市も認知度と行動している割合にギャップあり

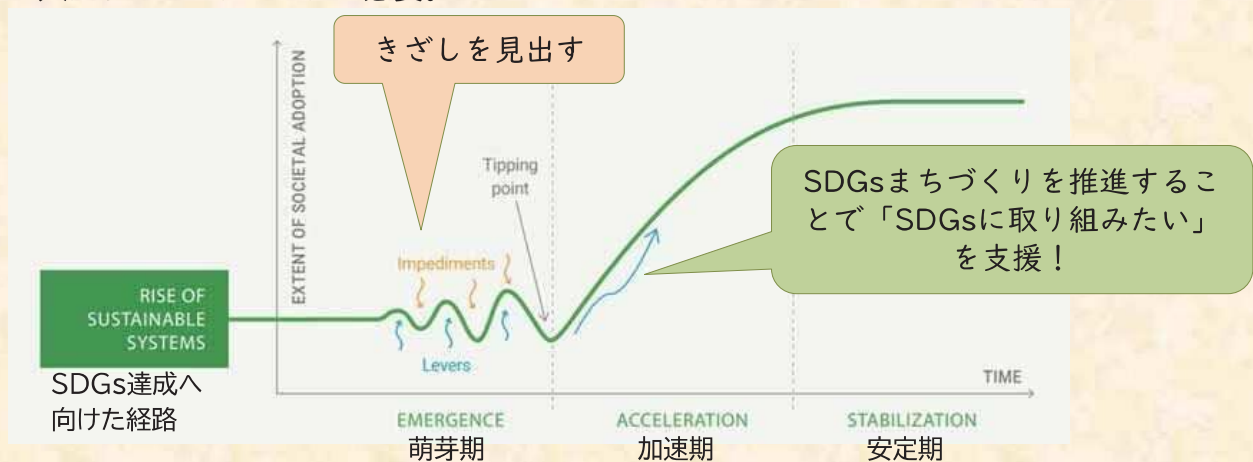
	令和3年度	令和5年度	増減
SDGsの認知度	65.3%	84.4%	+19.1P
SDGsを意識して行動している市民の割合	59.6%	60.4%	+0.8P

・本市のSDGsの認知度は令和3年度から5年度までで65.3%から84.4%と19.1ポイント上昇している一方で、SDGsを意識して行動している人は59.6%から60.4%と0.8ポイントの上昇にとどまっている。

SDGs達成に必要な
のは…？

【変革!!】TRANSFORMATIONS(トランスフォーメーション)

・SDGsの取り組みに興味がある、SDGsの取り組みをしたいが何をすればよい？という人たちへのアプローチが必要。



取り組みは早い方が
コスパも良い

FINANCING GAP FOR THE SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
(持続可能な開発目標のための資金ギャップ)

・SDGsのGoalについて、早く投資すればコストは
少なく済むが、投資が遅くなればなるほど、必要
なコストがかさんでいく



熱田湊まちづくり協議会 中田俊夫氏



熱田湊まちづくり協議会がSDGsまちづくりに取り組むことを決めてから2年間SDGsの周知と理解を大きく推進する事ができました。

そしてSDGsを切り口とした各種事業を推進しスタートする事ができました。

日本福祉大学の千頭 聡先生から「自分のもの」→「あなたのもの」→「皆のもの」へ「繋がりと共有の大切さ」をご指導いただきましたが、SDGsを切り口とした各種事業を推進して行く中で、その大切さを実感として味わいました。

当協議会が、この取組を実施した事で、住民一人一人が、SDGsについて考えたり、住民同士話したりする機会が増えました。今後も増え続けるでしょう。

今まで、実施していなかった事業、SDGs講演会や真夏の夜の浜おどりの開催、ポタニカルライトの設置、子ども図書室の開設、プロギング大会の開催、子ども食堂におけるコンポスト活用等、いくつもの事業をスタートさせる事ができました。

SDGs講演会の中で、「SDGsまちづくり地区」の宣言をしました。

また、毎年年末に開催している「防災講演会と心の絆コンサート」（チケット総数2027枚）では第二部として「防災とSDGs」について、こちらも千頭 聡先生のコーディネートにより、パネルディスカッションを開催。住民の方々に広く「SDGsまちづくり」を理解して頂く機会となりました。

これらはボランティアとして活動して頂いた方々や名古屋市職員の方々に深く感謝するものです。

これら事業を継続推進しSDGsまちづくりが、益々盛んになる事を願っています。

有松地域デザイン委員会 武馬淑恵氏



有松でのSDGsまちづくり活動は、【イクセン（幾千・育染）プロジェクト】が立ち上がったことが象徴的な成果だと考えています。これは、有松に住んでいる人だけでなく、有松に興味がある人や有松に来た人も巻き込み、SDGsの目線から絞り染めのまちのアイデンティティやルーツを捉えなおすものとなりました。

有松は、2016年に国の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、2019年には日本遺産に選定されるなど、地域の魅力を発信する機会が増加していますが、来訪者数は毎年6月に開催される「有松絞まつり」の1点に集中し、年間を通じてにぎわうまちなることが望まれています。また、有松の主要産業である「有松絞」に関わる事業者の高齢化は進んでおり、後継者が現れず、残念ながら廃業する企業も出てきております。

このような状況の中で、天然の藍染とはどのようなプロセスで行われるのか、有松絞の材料となる木綿の生地はどのようにつくられるのか、それぞれ「藍」と「木綿」という植物を一緒に育てるところから始めました。今回、これまでも藍を育てていた南医療生活協同組合「藍愛プロジェクト」のみなさんや、先進的にSDGsまちづくり活動を展開し、繊維街として知られる長者町にて「長者町綿コットンプロジェクト」に取り組んできた実績を持つ365 wishes 神村泰代さんの協力を得てスタートし、プロジェクトの参加者はLINEのオープンチャットを通じ、各家庭のベランダやお庭での栽培状況や藍や木綿の活用方法について情報交換するなど、参加者同士の関係づくりを進めました。

また、知多木綿の産地や常滑にある藍染工房との連携の素地を作ることができたことから、植物の栽培やものづくり文化について互いに学び合う活動関係を育み、伝統工芸や循環型社会におけるライフスタイルを身近に感じる取り組みに育てていきたいと考えています。

SDGsまちづくり推進事業 2022・2023 Report

2024 年 3 月

SDGsまちづくり推進事業実施団体

熱田湊まちづくり協議会

有松地域デザイン委員会

編集・発行 名古屋市環境局環境企画課 SDGsまちづくりの推進担当

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話:052-972-2293(ダイヤルイン)

株式会社都市研究所スペース

〒460-0008 名古屋市中区栄五丁目1番32号

電話:052-242-3262



SDGsまちづくり推進事業 2022・2023 Report

2024年3月 名古屋市環境局環境企画課

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

